

# 令和5年度 幼保小連携推進 報告書

## 「ESDの取組を軸にした持続可能な幼保小連携へ」

みなとみらい本町地区

みなとみらい本町小学校

みなとみらいくばがさ保育園

キッズパートナーみなとみらい

ポピンズナーサリースクールみなとみらい

にじいろ保育園みなとみらい

# 推進テーマ設定の理由

本校と地域の特色から

多様な環境  
で育ってき  
た児童

- 毎年複数の園から児童が本校に入学している(30園以上)
- 園庭を持たない保育園・保育所(ビル内)が多くあり、  
園児は、広い場所で遊ぶために公園に出かける必要がある。

# 今年度の取り組みについて

実施時期	活動内容
4～5月	担当者顔合わせ / 活動計画立案
6～7月	交流1回目 / テーマの設定
8月	職員夏季研修会（ワークショップ）
9月～2月	交流2回目～
2月	今年度の振り返り

# 今年度の重点課題

～今年度力を入れたこと～

- 1 誰もが安心できる交流活動を行う
- 2 ESDと幼保小連携
- 3 小学校と地域 ～いつでも使える学校施設～

## 取り組みの実際



- 1 多様性を認め、  
誰もが安心できる交流活動を行う



- ☛ 「何があっても大丈夫」の安心感
  - ・学校職員皆で関わる幼保小
  - ・1年生以外の担任、専科の先生も職員皆で「また来たね。待ってたよ。」

# 取り組みの実際

- 1 多様性を認め、  
誰もが安心できる交流活動を行う
- ☞ 見通しがもてる(人、施設、活動)
    - ・子どもの見通しと大人の見通し
    - ・活動案の相談と共有
    - ・繰り返しの交流

活動名 みんなで楽しくSDG&おもちゃまつり。  
日 時 令和5年12月7日(木) 2校時(9:30~10:15)。  
場 所 みなとみらい体町小学校 体育館。  
参加者 浜びスナークリースクールみなとみらい10名・みなとみらい体町小学校1年1組児童24名。  
みなとみらい体町小学校2年1組児童26名。  
ならい ○生活科で体験したおもちゃで一緒に遊ぶことを通じて、小学生(園児)や小学校に関心をもち、また一緒に遊びたいという思いをもつことができる。

時程	保育園	活動の流れ	小学校
	●園児の活動 ○教員の挨拶。		●児童の活動 ○教員の挨拶。
	< 事前に行う >		< 事前に行う >
9:30~40	●みなとみらい体町小学校客。○児童の存在を承認できるような声かけをする。	挨拶をする。(初めての出会い)	●体育館着。○園児の存在を承認できるように声かけをする。
9:40	●挨拶。○園児と一緒に挨拶をする。	↓ 遊び①(おもちゃ遊び①)	●挨拶。●遊びの提案をする。
10:50	●児童と遊びの完了。○園児の安全管理と指導。	↓ 休憩タイム(水分補給)	●児童と遊びの完了。○全体の安全管理と指導。
10:00	●水分補給を行う。○トイレ誘導。	↓ 遊び②(おもちゃ遊び②)	●水分補給を行う。○トイレ誘導。
10:05	●児童と遊びの完了。○園児の安全管理と指導。	↓ 最終な振り返り(おさようなら)	●児童と遊びの完了。○園児の安全管理と指導。
10:15	●集合する。●良かったこと、感想を伝える。○感想を話すことができそうな園児に話題をふる。		●集合する。●良かったこと、感想を伺いかける。○次の空間につながるような前向きな声かけをする。
10:25			○次の空間につながるような前向きな声かけをする。
持ち物	帽子・水筒・ハンカチ。		水筒・ハンカチ。

# 取り組みの実際

1 多様性を認め、  
誰もが安心できる交流活動を行う

---

☛ 職員の相互理解

(子ども観、教育観、本校と各園のESDの取組について共有)

・ワークショップを通して子どもへの関わり方を学ぶ

# 取り組みの実際

## 2 ESDと幼保小連携

「多様な他者との関わり」から得られる価値

直接02 協働性	子どもたちは、多様な他者とのコミュニケーションを図り、活動の価値に気付いている。
-------------	--

👉 本校の「ESDロジックモデル」とのリンク

- ・幼保小を学校全体で関わる取組へ

学校全体	学校教育目標（「ふるさと」を「ふるさと」を「ふるさと」）
学年	各学年の学習目標（「ふるさと」を「ふるさと」を「ふるさと」）
授業	各単元の学習目標（「ふるさと」を「ふるさと」を「ふるさと」）
活動	各活動の学習目標（「ふるさと」を「ふるさと」を「ふるさと」）
地域連携	各連携の学習目標（「ふるさと」を「ふるさと」を「ふるさと」）
社会貢献	各貢献の学習目標（「ふるさと」を「ふるさと」を「ふるさと」）
評価	各評価の学習目標（「ふるさと」を「ふるさと」を「ふるさと」）

# 取り組みの実際

## 2 ESDと幼保小連携

多様な他者との関わり～2年生の学習と関連して～



1年生



園児

2年生

\*生活科「おもちゃランド」

・園児、1年生、2年生が自然に混じり合い、一緒に活動を楽しみました。

# 取り組みの実際

## 2 ESDと幼保小連携



多様な他者との関わり



- ☛ 4年生「SDGsクレヨン」で交流
  - ・園児と一緒に遊び、楽しむ
- ☛ 5年生「ようこそMMH小学校へ」
  - ・学校探検&紹介

# 取り組みの実際

## 3 小学校と地域

～ いつでも使える学校施設 ～



「施設利用」の際、図書室  
で大型絵本を楽しむ園児

園庭をもたない保育園・保育所(ビル内)が多い

- ☛ 小学校を「施設利用」として開放する
- ・小学校の広い校庭、砂場、図書室など
- ・できるだけ気軽に、園に利用してもらう

# 成果と今後の展望

1年目 「みなとみらい本町小学校地区の実態を知る」

2年目「直接交流と開かれた学校へ」

3年目 「ESDの取組を軸にした持続可能な幼保小連携へ」

## 成果

①職員の意識変容 「1年生の幼保小」→「みんなの幼保小」へ

・「幼保小」を自分事に、積極的に関わろうとする職員が増えた

②子ども達の成長と学び

・他者意識の芽生え ・みんながいるから楽しい小学校



学校全体(1年～6年生児童も職員も)で「多様な他者との関わりから得られる価値」を共有することで、3年間の取組に終らず、ESDを軸にした持続可能な幼保小連携の取組が可能に